

大豆「タチナガハ」の栽培法について

1 試験のねらい

タチナガハは、良質多収品種であり、機械化栽培にも適しており、昭和61年度に奨励品種に採用された。この品種に適した栽培法について、昭和59年～62年にかけて検討を行った。

2 試験方法

試験は農試本場転換畑（中粗粒灰色低地土、灰褐系、ビール麦跡）で実施した。

昭和59年は、土壤改良（堆肥a当たり200kg、ようりん同20kg、硫酸マンガン同1kg）の有無及び栽植密度について検討した。

昭和60～61年は、播種期及び栽植密度について検討したが、昭和60年はシストセンチュウによる被害が大きかったので報告から除外した。

昭和62年は、栽植密度、中耕及び培土について検討した。

3 試験の結果及び考察

昭和59年の結果を表-1に示した。土壤改良の有無、栽植密度とも処理間に差はなく、また、スズユタカとタチナガハに差は認められなかった。

昭和61年の結果を表-2に示した。タチナガハは、耐倒伏性が強く、子実重はスズユタカと同程度の多収であり、百粒重はエンレイより重い大粒であった。また、播種期では6月5日播では倒伏が多く、6月20日播では軽微でかつ収量に有意差がないことから、播種期は6月20日が、また、栽植密度では子実重に有意差がないので倒伏が軽減される㎡当たり12.5～16.7本が適当と推察された。

昭和62年の結果を表-3に示した。中耕及び培土の効果は判然としなかったが、栽植密度では㎡当たり12.5本が最も多収だった。

以上より、栽植密度については年により傾向が若干異なるが、㎡当たり12.5本程度が適当と推察された。

4 成果の要約

タチナガハの栽培法について検討した結果、土壤改良の効果、中耕及び培土の効果は判然としなかった。栽植密度は㎡当たり12.5本が適当であった。播種期については単年度の結果ではあるが6月20日播が適当と推察された。

（担当者 作物部 前波健二郎＊）

＊現普及教育課

表-1 生育収量調査(昭和59年)

土 壤 改 良	品 種	栽 植 開 花 成 熟				主 茎 主 茎 分 枝 稈 実 茎 の 全 重 子 実 百 粒							
		密 度	期	期	倒 伏	長	節 数	数	莢 数	太 さ	重 重		
		本/㎡	月	日	日	cm	節	本	莢/株	mm	kg/a	kg/a	g
無	タチナガハ	12.5	8.9	10.16	1.3	58	12.9	4.2	38.7	7.1	73.3	40.0	33.1
		16.7	8.9	10.15	0.8	67	13.1	3.2	28.8	6.6	68.3	36.4	30.4
		20.9	8.8	10.16	0.5	68	12.5	3.0	26.1	6.2	63.3	34.7	30.8
	スズユタカ	12.5	8.10	10.18	2.0	58	13.4	4.3	49.7	7.6	68.3	34.6	25.0
		16.7	8.10	10.18	3.0	62	12.8	3.8	41.3	7.3	70.0	34.6	24.7
		20.9	8.10	10.17	2.3	67	12.9	2.9	38.9	7.1	80.0	39.9	25.6
有	タチナガハ	12.5	8.8	10.16	1.3	64	12.7	4.0	35.8	7.4	66.7	34.8	30.6
		16.7	8.9	10.15	1.3	65	12.6	3.2	30.3	7.2	66.7	32.6	29.5
		20.9	8.8	10.17	0.3	77	12.8	3.3	27.3	7.4	66.7	36.2	32.2
	スズユタカ	12.5	8.11	10.19	2.8	62	13.2	4.7	54.9	8.3	68.3	36.9	25.4
		16.7	8.11	10.19	3.3	70	13.1	3.4	48.0	7.9	66.7	35.3	25.4
		20.9	8.10	10.19	3.5	68	13.0	2.7	39.7	6.9	71.7	39.9	27.1

表-2 生育収量調査(昭和61年)

形質 要因 及び水準	主 茎 稈 実 子 実 百 粒				
	倒 伏	長	莢 数	重	重
		cm	莢/株	kg/a	g
播 種 期 (I)	**	**	*	*	**
6 月 月 5 日	4.7	102	45.6	34.4	31.6
20 日	3.4	79	45.4	32.1	30.8
7 月 5 日	2.3	68	39.1	30.1	28.5
品 種 (V)	**	-	**	*	**
エンレイ	4.5	82	42.0	28.6	29.4
タチナガハ	2.0	85	37.7	33.2	33.7
スズユタカ	3.9	81	49.3	33.3	27.7
栽植密度(C)	*	**	**	-	-
12.5本/㎡	3.2	77	52.3	31.3	30.3
16.7 "	3.3	85	40.3	32.0	30.1
20.8 "	3.8	86	36.4	31.9	30.3
交 互 作 用	T×V	*	*	-	+
	T×C	-	*	-	-
	V×C	-	+	+	-

注 **、*、+：各々1%、5%、10%水準で有意差有り

表-3 生育収量調査(昭和62年)

形質 要因 及び水準	総 節 稈 実 子 実 百 粒				
	倒 伏	数	莢 数	重	重
		節	莢/株	kg/a	g
中 耕 (B)	-	-	-	-	-
無	2.8	36.0	44.3	36.9	34.1
有	3.1	34.7	43.1	37.9	34.5
培 土 (C)	+	**	-	-	-
無	3.3	35.8	44.9	37.6	34.3
有	2.7	34.9	42.4	37.1	34.3
栽植密度(D)	+	**	**	+	-
8.3本/㎡	2.4	40.6	56.2	35.9	33.8
12.5 "	3.1	35.2	43.1	39.1	34.3
16.7 "	3.4	30.2	31.7	37.1	34.7
交 互 作 用	B×C	-	**	-	-
	B×D	-	-	-	-
	C×D	-	-	-	-
	B×C×D	-	-	-	-